

（仮称）小牧市こども未来館ワークショップ 実施報告

第3回では、基本構想（案）をもとにこれから進める詳細設計に向けて、意見交換を行いました。ゾーニングの考え方や、利用者の安全確保、ゴミの取り扱いなども含めた管理運営など、それぞれの専門分野や経験からの意見や提案など、活発なディスカッションが行われました。

1. 開催日程について

◆第3回有識者ワークショップ◆

日時：平成30年3月8日（木）

午後6時～8時

場所：小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

参加者：下記のとおり（敬称略・順不同）

玉置 崇（岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授）

小谷 博子（東京未来大学 こども心理学部 准教授）

長江 美津子（名古屋経済大学 教育保育学科 特任教授）

豊田 洋一（中部大学 工学部 建築学科 教授）

佐藤 将之（早稲田大学 人間科学学術院 准教授）

石原 邦彦（愛知県児童総合センター センター長）

坂廻辺 範子（味噌岡児童館サポーター代表）

基本構想（案）説明の様子



2. 意見交換・ディスカッションについて

テーマについて自由に意見交換およびディスカッションを行いました。

- ・【テーマ】「基本構想（案）から考える魅力的な施設設計について」
- ・ディスカッションでの主な意見は下記のとおりです。

《施設の管理運営等について》

- 詳細設計にあたり、まずは出入口などの運営管理の視点をどうするか固める必要がある。
- 指定管理や委託等で運営を行う事業者以外にも学生などのサポート団体があるなど、運営に関わる組織体を明確にし、たとえ組織体が変わっても持続可能な仕組みを考えていく必要があるのではないか。
- こども達のリアルタイムの活動が発信できる等のIT環境が必要だと思う。家に帰ってからではなく、その場の感動をその場で広く伝える必要があるのではないか。
- バリアフリーや防犯対策の視点が少し足りないと感じる。
- ゴミ箱については、繁忙期溢れる可能性があるので設置は十分に検討した方がよい。
- 外国籍のこどもも増えているので、適切なピクトグラム等を検討した方がよい。
- 想定されるこどもの同時利用人数によって、各ゾーンの規模が決まるが、こどもだけでなく、一緒に来館する大人が休憩できるスペース、荷物置ロッカー、飲食できるスペースなども忘れずに整備することが必要。

《ゾーニングおよび諸室について》

- 4階は「えほん図書館」との連携も考慮し、幼児向けの配置とし、2階に新図書館との連携等を考え、中高生向けの配置とした方がよい。
- 多くの来館者が訪れる施設にするのであれば、具体的な目的のある機能はなるべく奥に配置すべき。例えば、低学年ならアスレチックやボルダリング、中高生ならスタジオなどは奥に配置し、自由な居場所は入口側にあるなどの視点で配置したらどうか。
- ゆっくり離乳食を食べさせられるスペース等があれば乳幼児親子も安心して利用できる。
- 工作室、理科室では、学校教育の領域を一步超えた学びの空間があるといいのではないか。
- 吹き抜けやエスカレーター撤去による縦動線は魅力的。大型遊具等の設置も想定されているので、そうした空間と絡め、大きな空間ならではの魅力づくりがあるといい。

《その他》

- 市外へ子育て施策の充実を周知していくのに、『男性が子育てに積極的なまち』のようなキャッチフレーズがあるといい。入口付近に男性が集える魅力的な機能があると面白い。目的をつくって参画するキッカケを与えるような仕組みづくりがあるといい。